

本巢市内の市民団体へのヒアリング調査 報告書（概要版）

一般社団法人よだか総合研究所

1.背景および目的

本巢市内の市民活動は、本巢市の運営する市民活動助成金への申請件数が減少傾向にあるなど、より一層の支援や発掘が必要な状況にある。そこで、本巢市内で活動する市民団体に、これまでの活動や、活動の現状、今後の方向性などをヒアリングして、今後の市民活動支援の参考とするための調査を実施した。

2.調査概要

団体	設立	現状	活動の経緯	支援に求めること
A	1990年代	解散済	<ul style="list-style-type: none">・ボランティアを通じて出会った仲間と、団体化した。・設立から20年以上経過し、社会環境が変化。役割を果たしたと判断し、解散した。	<ul style="list-style-type: none">・設立当時は、自治体から市民団体への助成制度は無かった。助成制度が出来て、活動が大幅に前進した。・より多くの人に、活動報告や情報提供の機会があることが重要。
B	2010年代	活動中	<ul style="list-style-type: none">・まわる市民協働のWSで関心を持ったコミュニティが形成され、団体化した。・今後、活動をさらに展開していきたいと考えている。	<ul style="list-style-type: none">・参加費を支払うことが困難な生活困窮者や障害者等を対象にした活動が多いため、助成金が必要である。・活動助成に加えて、寄付集めなど組織基盤を作る助成があるといい。
C	2020年代	活動中	<ul style="list-style-type: none">・社会PJ相談窓口を経て、関心を持っていそうな友人に声をかけ、団体化した。・色々な活動をしながら、団体の方向性を模索している。	<ul style="list-style-type: none">・市民活動に関する相談を聞いてくれる人がいる、ということが重要。・他の団体の活動を知り、仲間になれる機会があると、活動の参考になるし、頑張ろうと思える。

3.考察

・市民団体を発掘する「社会PJ相談窓口」、初期費用を助成する「社会PJ奨励金」、活動報告や情報提供の機会である「活動報告&公開企画WS」など、まわる市民協働の各種事業に対する一定の評価が得られた。今後、行政や他団体との連携を深め、一層の発展が望まれる。

・本巢市市民活動助成金の過年度助成先団体3団体にヒアリングを依頼したが、うち2団体からは返事がなく、それらの団体に関しての現状を把握することは困難であった。